

具体的な研修内容

三小田 博 昭

8泊10日日程で、本校生徒10名がBHSECとの研究交流に参加した。本校SSH生徒研究員制度プロジェクトに所属する生徒の中から選考した、ヒドラプロジェクトから2名、相対論・宇宙論プロジェクトから3名、色素プロジェクトから3名、チャンドラセカールプロジェクトから2名となる。

(1) BHSECでの活動

アメリカの高校で、英語によるプレゼンテーションを行う事前研修として、名古屋大学・大学院に所属する留学生をTAとして招き、発表の練習や発表内容の精査を行った。BHSECの理科数学の授業に参加し、米国の授業スタイルになれることから始めた。発表は理科の授業の中で行った。また、よりコミュにカティブな発表をするために、ポスタープレゼンテーションも行った。



(2) ニューヨーク市立大学での実験

ニューヨーク市立大学の教授による、免疫に関するレクチャーと最先端の研究の紹介を受けた後、マウスを行った。BHSECの生物選択生徒も参加した。質疑応答の場面では、米国の高校生に混じり、積極的に質問をすることができた。午後は大学キャンパスツアーも行った。

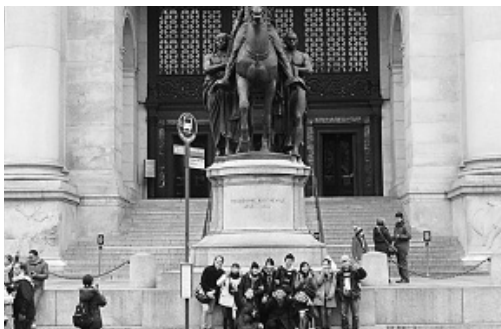




(3, 4) アメリカ自然史博物館、エリス島博物館での研修

自然史博物館を訪問だけでなく、バックヤードツアーも実施した。研究者から直接、博物館の展示物や、展示物作成についての説明を受けた。十分に時間をかけて展示物を観察することができた。

エリスと博物館では、移民の歴史やその背景を学び、米国社会の多様性を学んだ。



(5) NY市立図書館での研修振り返り

帰国前日、BHSECの生徒も交え研修の振り返りを行った。この研修に参加して良かった点や次年度以降変更した方がよい点などを日米の生徒や教員で研修のまとめを行った。それにより、続けた方がよい成果と、再考した方がよい課題を明確化することができた。

(6) 参加生徒の感想

- ・SSHの発表や準備・リハーサルを通して、自分は研究をすることが好きなんだと改めて実感しました。リハーサルを重ねて練習を十分したので、本番も楽しんで発表することができました。BHSECでは、生徒たちが積極的で授業の雰囲気が日本とは異なっていました。
- ・NYで驚いたことは、学校の授業風景である。ほとんどの授業では、机がコの字型に配置され、ディスカッションがしやすいようになっている。生徒主導の授業が進行していた。日本にいたら経験できないようなことをたくさん経験することができた。
- ・サイエンスプレゼンテーションや米国での授業参加もとてもよい経験になりました。言語が違って、たくさんの人が興味を持って楽しく聞けるプレゼンの仕方がとても大事だと思いました。来る前は英語やプレゼンに対して不安がありましたが、ニューヨーク研修に参加できてとてもよかった。

(文責 三小田博昭)